

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

ぼけますから、



よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録



託児あり
(要事前申込)

定員 15名
概ね生後6ヶ月～
就学前

入場料 無料

とき ▶ 2020(令和2)年3月8日(日)

字幕あり 上映会 13:30~15:20(受付開始 13:00)

手話通訳あり 講演会 15:30~16:30

ところ ▶ 西脇市茜が丘複合施設 Miraie 多目的ホール

定員 ▶ 150名(先着順/要事前申込)

申込方法▶ 申込書(裏面)をみらいえ総合案内、または
FAXにて提出。(メール、電話も可)

【申込み・問合せ】西脇市男女共同参画センター

電話: 0795-25-2800 FAX: 0795-25-2220

メール: danjyo-c@city.nishiwaki.lg.jp

主催: 西脇市市民活動グループ「もっとすてきに“パートナー”委員会」、西脇市人権教育協議会
後援: 西脇市、西脇市教育委員会、西脇市社会福祉協議会

監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

同日開催!
(要事前申込)

信友直子監督
講演会
(15:30~
16:30)



かえりに向けて初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。



**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めめめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



【申込用紙】 西脇市男女共同参画センター宛 FAX：0795-25-2220 電話：0795-25-2800

名前	① ふりがな (才)	② ふりがな (才)
住所	〒 _____ (電話： _____)	
託児	名前(ふりがな) (才)	名前(ふりがな) (才)

※ご記入いただきました個人情報は、本講座運営及び当センターの講座・イベントご案内の目的以外には使用いたしません。